

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1750号 2004年10月12日(火)

注目された9月の米雇用統計の非農業部門就業者数増加数が、市場の予想(14万人前後)を下回る9万6000人にとどまったことから、統計発表後のニューヨーク市場、それに月曜日の世界の市場では統計発表前に比べてドル安の展開となった。ただしその相場変動は、大部分が統計発表直後の動きで、その後の外国為替市場は静かな動き。依然として同市場の相場変動エネルギーが低いことを示した。ドル・円は109円台のローまで下げたが、12日早朝現在では一気にさらにドル安を試す雰囲気ではない。

対して、動き続けたのは原油相場である。じわりとだが上昇を続けて、週明けのニューヨーク市場ではWTIの11月渡しが高値で53ドル80セント、引けで53ドル64セントと、53ドル台を示現した。ロンドンでもブレント相場が50ドル台の新高値を付けた。ナイジェリアでのストが今後同国の原油供給を阻害するとの懸念、またハリケーンに見舞われたメキシコ湾岸の原油パイプラインの損失に関する懸念が原油高の直接的材料。むろん原油続騰の背景要因は、需給の世界的な逼迫と投機資金の原油市場への集中である。

しかしこうした原油高にもかかわらず、ニューヨークの株式市場は週末こそ雇用統計を嫌気して大きく下げたものの、週明けは企業業績改善への期待からダウ、Nasdaqとも小幅高で終わった。景気減速に対する懸念は強いものの、今後数週間間に発表される企業業績への期待が株価を金曜日から反発させた。ダウは26.77ドル高の10081.97ドルで1万ドル台をキープし、Nasdaqは8.79ポイント高の1928.76。

この週末に起きたことと言えば、米大統領選挙の形勢が一段と接近戦になりつつある、ということでしょうか。副大統領候補同士の討論、第二回のブッシュ・ケリー対決でも、共和党候補者は全体的に見て民主党候補者に負けていたというのが大方の見方。全体の支持率では依然として共和党のブッシュ陣営が有利と見られているが、かつてほどの支持率格差は保っていない、との見方多い。第三回の大統領候補同士のディベートはアメリカ時間の水曜日にアリゾナ州で行われる。ブッシュ大統領には、第一回の討論での背中のおぶに関して「無線機疑惑」が起きている。ただしこれもまだ市場の材料とされるほどではない。

今週の主な予定は以下の通り。

10月12日(火)

臨時国会召集(～12月3日)

日銀政策決定会合(～13日)

	米 8 月シカゴ連銀製造業指数
	8 月国際収支
	8 月鉱工業生産（確報）・設備稼働率
	10 月日銀金融経済月報
	福井日銀総裁定例記者会見
10 月 14 日（木）	9 月国内企業物価指数
	9 月消費動向調査（全国・月次）
	米 8 月貿易収支
	米 9 月輸入物価指数
10 月 15 日（金）	8 月景気動向指数速報（改定）
	米 8 月企業在庫
	米 9 月生産者物価指数
	米 9 月小売売上高
	米 9 月鉱工業生産・設備稼働率
	米 10 月 NY 連銀製造業景気指数
	米 10 月ミシガン大消費者信頼感指数（速報）

台風が過ぎて「秋晴れ」になるかと思ったら、東京は日曜日も月曜日も冴えない天気が続いた連休でした。火曜日の朝も空が重い。一日短い週ですが、皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤（E-mail [ycaster@gol.com](mailto:ycaster@gol.com)）が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》